

## リーディングの授業に集中させるために

三木 美穂

三田西陵高等学校

### 1. はじめに

本校は学力が中位の普通科の高等学校である。ほとんどの生徒が静かに座って授業を受け、学習に取り組むことができるが、クラスによっては騒がしく落ち着きがない一部の生徒によって授業に集中させるのに努力が必要である。また、最近の高校生の現状でもあるのだが、家庭学習時間はかなり少ないものである。

授業の現状としては、旧来型の一斉授業で、教師が説明しノートを取らせる形になっている。質問もこちらからの指名で生徒の発話が少ない。今年度から始まったリーディングの授業をどのように組み立てていけばよいのか試行錯誤していた。訳読が中心になりやすい科目であるが、訳だけが分かっても読む力が養われないし、生徒が退屈だと感じてしまうと授業に集中できないからである。

### 2. 課題の設定と研究計画

まず、授業に取り組む姿勢を作る。授業が和訳になると眠くなる生徒を授業に取り組みやすくする。授業での取り組みが、小テスト・定期考査の中で評価として表れてくることで自信をつけさせ、「難しく理解できない」と思い込んでいる英語学習への壁を取り除いてやりたい。具体的には、教科書に対する補助プリントの充実を図り、『和訳』に重点を置くのではなく、段落構成や論の展開に目を向けさせる。また、授業の中で時間を取り重要表現を暗記させる。そして可能であれば、IT機器を利用し生徒の発話を増やすことや、新しい授業の雰囲気作りに取り組みたい。

### 3. 授業実践(全訳プリント・小テストプリント)

クラスの雰囲気を落ち着かせ授業に集中させることができるように、授業を取り組みやすい形式にした。まず、単元の最初にその課に出てくる重要表現を5分間覚えさせ、小テストを行った。これにより授業の内容についていきやすくなり、その時間に集中できるようになった。内容把握については、全訳プリントを作成することで生徒が取り組みやすく、また教師としても和訳に時間をかけずにすむようにした。全訳プリントに取り組む過程で、文法事項にふれる事もあった。文章の展開や段落構成については、教科書に載ってあるものを利用した。

進度の速いクラスについては、小笠原先生の実践授業で見せていただいた「英文暗唱・

Last Sentence Dictation」を授業に取り入れた。本校の生徒にとっては、声を出すのが恥ずかしいらしく、教師側も慣れていないため、軌道に乗せることはできなかった。しかし、今後本校の生徒に合うように形を変えて取り込んでいきたい。例えば暗唱するものを1文か2文に絞る、またはいくつかの中から選択させ、教師が暗唱できたかどうか確認テストをするというようなものである。確認テストがあるからこそ真剣に暗唱するだろうと思われるのだが、確認テストは時間との兼ね合いが検討事項である。

#### 4. 授業の振り返りと考察

生徒のほとんどは熱心に小テストに取り組んでいた。平常点として評価に取り入れているが、落ち着いたのなかったクラスでも大変平均点が良かった。理由としては、自宅学習の習慣がついていないものの生徒自身には5分間集中して覚えきりだけの学力があり、またしっかり覚えたことが得点に結びつき達成感を毎週得られたことが考えられる。また、授業の初めに何かに集中して取り組ませることで、その時間が落ち着いたものになったようである。

全訳プリントを使って授業をするようになってからは、眠たくなる生徒が減り、授業によく取り組むようになった。全訳プリントが生徒にとって良かった点は、空欄に適切な表現を入れていくことで和訳が完成するので、負担感がなく考査前にも安心できることである。教師にとって良かった点は、内容確認（和訳）に時間をかけずに、ポイントだけ説明しながら授業を進めることができた点である。憂慮する点としては、全訳プリントとして渡すことで、生徒がその文章を独力で読むことなく、プリントに書き込まれた記号やアンダーラインに（、□、\_、〰、）頼って読んでしまうこと、内容に関する質問に答えるときに、英文ではなく和訳を見ようとする点である。

#### 5. まとめと今後の課題

今回の研究対象としたリーディングの授業では、生徒が授業に積極的に取り組むように、家庭学習の少なさを授業で補えるように努力を重ねてきたが、それはこれまでどの先生方もされてきたことであり、旧来型の授業であることには変わりなかった。当初、なんとかIT機器を使用し、下を向いている生徒に前を向かせ、発話を増やしたいと考えていたが、4月に計画した授業進度や内容をうまく調整しながら、授業にパソコンやスクリーンを持ち込もうという積極的な努力に欠けていたため、実現しなかった。せっかく何回も研究会を開催してくださったのに申し訳ない思いでいっぱいである。

今後の課題は、生徒の発話を増やすことである。そのために暗唱確認テストを取り入れたり、ペアワークで生徒同確認させたりしたい。